

社会への数学

池田(@ikemath¹)

日本数学会が数学系の修士課程 557 人, 博士課程 173 人の学生にアンケート調査をした「数学の振興、若手人材育成のためのアンケート調査報告および提言²」によると, 修了後の進路として「中高教員・企業」を希望する割合は修士 74.6%, 博士 16.8% となっています. また,

数学・数理科学の学生が大学院修了後に社会で活躍するために, 例えば企業等へ将来の進路を考えている学生へ向けた企業等との交流の機会を作るなどのキャリア支援が必要だと思うか

という問いには「強く思う, やや思う」が修士 80.8%, 博士 43.4%,

どこからのキャリア支援プログラムを期待しているか

という問いには「企業」と答える学生が修士 54.3%, 博士 45.5% にのぼります. 一方で,

数学・数理科学の研究は社会からどのように考えられているか

という問いには, 修士 36.7%, 博士 51.5% の学生が, 「社会に役立つこととは独立な研究である」と回答しています.

本講演ではこれらの溝を埋めるべく, 数学を専攻していた筆者自信の経験をもとに, 数学がどのように社会の役に立ってしまっているのか実例を通して紹介します. 果たして数学は社会の役に立つべきなのか? 社会に出たい人も, 出たくない人も, 出られない人も, 是非ご参集くださいませ. 予備知識は不要です.

¹ <https://twitter.com/ikemath>

² <http://mathsoc.jp/proclaim/report2010/>